

会 議 録

1 会議名	平成24年度第5回宇都宮市上河内自治会議
2 開催日時	平成24年11月20日（火） 午後2時00分～午後4時00分
3 開催場所	宇都宮市上河内地域自治センター大会議室
4 出席者	<p>【委員】</p> <p>太田正，山口和子，赤羽博行，江連脩身，神山光男，亀田勝敏，川津昭夫，田口利男，手塚道子，手塚安則，星優美子，谷田部喜美江，君島恭子，櫻井清一，藤井直和</p> <p>【事務局】</p> <p>地域自治制度担当副参事，上河内地域自治センター所長，地域経営課長，地域づくり課長，保健福祉課長，産業土木課長，自治振興課職員，地域経営課職員</p>
5 公開・非公開	公 開
6 傍聴者数	<p>【傍聴者】なし</p> <p>【記者】なし</p>
7 会議経過	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>（1）報告事項</p> <p>（2）地域のまちづくりに関する施策の提案について 各テーマにおける実行プランについて・・・資料1</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉 会</p>

1 開 会
平成24年度第5回宇都宮市上河内自治会議開催
2 あいさつ
太田会長よりあいさつ

3 議 事	
(1) 報告事項	
会 長	<p>次第3の議事に入らせていただく。</p> <p>まず(1)の報告事項について、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>平成24年8月9日に上河内地域自治センターで開催したまちづくり懇談会において、合併市町村基本計画に関する意見が2件ほど出されたことから、市長の回答を含め報告させていただく。</p> <p>まず、スマートIC周辺の安全確保について、「平成22年のスマートICフルオープンにより、利用者が増え、それに伴い周辺の道路での事故の危険性が増大している。周辺には小中学校の通学路があり、通学の安全を確保するため、道路拡幅や歩道整備等、早急に対策をお願いする。」という意見があった。</p> <p>市長の回答としては、「スマートICの完成を契機に更に発展させ上河内が飛躍できる環境をつくっていきたいと思っている。一方で交通安全についても同時に解消していかなければならないと思っている。地元からも道路整備の強い要望があったことから、5月に歩道の設計委託を発注した。歩道の設計ができ次第、地元説明会を開催する予定である。」という回答である。</p> <p>2つ目に、上河内地域の今後の地域振興について、「平成19年の合併時に締結した合併市町村基本計画に位置づけられた13事業のうち、3事業については完了し、上河内地区における良好な住環境が整備されつつあり、大変ありがたく思っている。しかし、まだ着手されていない事業があることから、今後の考え方について伺いたい。」という意見があった。</p> <p>市長の回答としては、「13事業のうち3事業については、すべて完了した。7事業については、すでに着手し継続して事業が進んでいる。残りの生涯学習センター整備事業・農産物直売所等整備事業・地域交流館整備事業の3事業については、地域自治会議をはじめ、地域の方々の意見を聞きながら進めさせていただく。」という回答である。</p>
会 長	<p>まちづくり懇談会において、これまで自治会議として審議してきた事柄に関する意見が出され、市長から回答をいただいたということであるが、これは自治会議による審議・答申の成果として、改めて市長にも再確認いただいたということである。</p>
(2) 地域のまちづくりに関する施策の提案について	
会 長	<p>次に(2)の地域のまちづくりに関する施策の提案について、事務局から説明願う。</p>

事務局	<p>前回の自治会議から間隔が開いたが、その間、今まで自治会議で協議してきた提案に関わる内容を、上河内地区まちづくり協議会に情報提供を行い、各方策に関わる取り組みに対し、大変貴重な意見をいただいたところである。今回の資料はそうした意見も踏まえ、実行プランの案としてまとめたので、本日、最終的な実行プランのまとめの協議をお願いしたい。</p> <p>なお、今回は3つのテーマ毎に区切って説明させていただくので、その都度、協議をしていただきたい。</p> <p>それでは、まず「子育て・教育」の部分について、説明させていただく。 （資料1の「子育て・教育」の実行プランについて説明）</p>
会長	<p>それでは、「子育て・教育」の実行プランから協議を進めていく。</p> <p>まず方策1「地域主催行事への積極的参加の推進」について、何か意見はないか。</p>
委員	<p>②伝統行事の伝承となっているが、伝統行事はいろいろなものがあるので絞込みが必要であると思う。</p>
会長	<p>伝統行事の伝承という取り組み自体は、自治会議でのグループ討議から出された意見ではないのか。</p>
副会長	<p>取り組み自体は自治会議で出された意見であるが、その中身については、「まち教授」というものを募集するというまちづくり協議会からの意見を反映したものである。まちづくり協議会の考えとしては、以前は「町民教授」というものがあり、そうしたものをもう一度募集して、その方々によって伝統行事を次の世代に伝えていこうという趣旨である。</p>
委員	<p>「町民教授」というものは、いろんな分野で募集して子どもたちに教えていただいたが、今はそうした名簿はつくっていないと思う。そうしたものをもう一度つくることで、高齢者とのふれあいを大切にするという意味で出された意見であると思う。</p>
委員	<p>「まち教授」を募集することも良いと思うが、伝統行事には、遊びを含めてなくなってしまったものもある。そうした伝統行事を掘り起こすとともに、どこまでを伝統行事と位置付けるのかを絞り込むことも必要であると思う。</p>
事務局	<p>スケジュールの3年後までの枠にある地域行事の実態調査の中に地域行事の絞込みという表現を追加してはいかがか。</p>
委員	<p>①の取り組みの中で「地域行事」という表現があり、②の取り組みでは「伝統行事」という表現が出てくるが、使い分けをはっきりさせる必要があると思う。</p>

会 長	①の取り組み内容にある地域行事の実態調査の中に伝統行事も含まれてくると思うので、失われた行事なども掘り起こすなどして、全体を対象に調査を進めていくということで、①と②の取り組み内容自体を分けずに考えてはいかがか。
全委員	異議なし。
副会長	①の取り組み内容に地域情報紙の歳時記の充実とあるが、まちづくり協議会から出された意見である。今年度からまちづくり協議会で地域情報紙を発行しており、それを活用して皆様に行事参加への意識の向上を図っていくことがねらいである。
会 長	その他、意見がないようであれば、次に進めさせていただく。 方策2「各種技能者による次世代を担う人材の育成」について、何か意見はないか。
全委員	意見なし。
会 長	それでは、方策3「スポーツを通じた子どもたちの絆づくりの推進」について、何か意見はないか。
委 員	昔は学校が中心でスポーツ少年団があったと思うが、現在はそうしたものがなくなってしまった。地域ぐるみでそうした組織ができれば良いと思う。
委 員	現在、各学校にスポーツ少年団はなく、例えばひとつの小学校にサッカーを教える指導者がおり、その指導者の基でスポーツをする方針に変わってきている。
委 員	⑤の取り組みの中にスポーツ大会の内容を検討ということで、スポーツ大会を実施する方向で示されているが、各種スポーツクラブがない状態では厳しいと思う。
会 長	子どもたちが集まれる核となるものがないと難しいということか。
委 員	体育協会にはいくつか専門部がある。そうしたところが⑦の取り組みにあるスポーツ指導者の発掘において指導者として子どもたちを指導しながら、ひとつの大会を開催することが理想であると思う。どの辺までが指導者なのかは疑問だが、今までは何かあったらどう対応するのかとの懸念から入っていけない部分があった。
会 長	確か種目別に資格制度が設けられていると思う。日本体育協会が資格認定を行い、それに基づき指導者として認められるということである。そうした有資格者をここで指導者と位置付けるのか、今まで子どもたちに実践的な指導をしてきた人も含めて扱うかは難しいところである。子どもたちがまとまるためには、組織化されていないと長続きがしないのではという

	意見と合わせ、スポーツ指導者を軸に組織化すべきではないかという意見であると思うがいかがか。
委員	組織化という意見であるが、子どもたちが少ない中で組織化することは難しいのではないか。⑥子どもたちの連帯強化という取り組みに、ラジオ体操が出てくるが、そうした身近な内容の方が子どもたちにとっては参加しやすいのではないか。
会長	現実問題として、各種目別に組織化するのではなく、もっとみんなが集えるような方法が良いのではないかという意見である。
委員	スケジュールの10年後にあるものが最終目的のように感じる。地域スポーツクラブの設置とあるが、クラブという組織ができないと参加できないものなのか。ここでは、環境づくりをしてソフト対策をしていった暁に完成形の姿として地域スポーツクラブができるという考えで描かれてきたと思う。⑧の取り組みにスポーツ施設の設置というハード整備の部分がいきなり出てくるが、⑤、⑦の取り組みが充実したうえで最終的にスポーツ施設の整備を行うという経過があったのではないか。
会長	⑤、⑦、⑧を個別な取り組みと考えるのではなく、相互の関係をどう見るのかという問題提起である。一つひとつを単発で行うのではなく、どこに重点を置いて取り組みを束ねていくのかというような、戦略性を持って取り組んでいった方が良いという意見であると思う。
委員	⑥の取り組みの中にラジオ体操の取り組み内容について検討とあるが、ラジオ体操実施の呼びかけは誰が行うのか。実際に実施するためには、そこまで決めておかなければならないと思うが、この場ではそこまでの議論は必要ないのか。
委員	昔はカードを持ってハンコを押してもらったりやり方でラジオ体操を行っていたので、学校からカードを配ってもらい、昔のようにラジオ体操を実施することが良い方法であると思う。
委員	今の子どもはラジオ体操自体できない子が多いため、現在、学校ではラジオ体操に対する考えが見直され、ある学校では一生懸命にラジオ体操を行っている。もちろんカードは学校などで配ってもらえると思うが、学校と連携してラジオ体操を教えてもらうことが大切である。したがって、ここは学校と連携してラジオ体操が身に付くよう教えるという内容でないと難しいと思う。
委員	実際に子どもたちは夏休みのラジオ体操には来るが、みんなで喋っているだけである。なぜ体操をしないのかを疑問に思い学校に聞いてみたところ、学校では一切教えていないということであった。まず、ラジオ体操を

	<p>教えることから始めることが必要であり、先ほどの意見にあった誰がやるのかについては、我々の年代や高齢者の方がラジオを持って来て子どもたちに教えることで、健康やふれあいの充実にも繋がるのではないかと思う。現在は育成会の方が来てラジオ体操を行っていると思うが、実施期間も昔より少なくなってきたので、そうした取り組みを地域ぐるみで実施することで内容の充実や期間の延長にも繋がると思う。</p>
委員	<p>上河内の住民と一緒に健康づくりの一環として、ラジオ体操を全員でやるのが大切である。</p>
委員	<p>地域と学校が結び付くということについては、いろんな場面で出てくると思うが、ラジオ体操一つを取っても、学校で教えないのであれば地域と結び付かない。学校と地域が結び付くためには、もう少し問題意識を持って学校にも協力していただかないといけないのではないか。</p>
会長	<p>いろんな意見が出されたが、⑥子どもたちの連帯強化という取り組みが、ラジオ体操を通じてどうやって連帯強化を図るのかという中身とすり合わない印象を受ける。先ほど意見があった地域ぐるみの健康づくりという視点から見ると、子ども同士の連帯とは違って来る。また、高齢者の方々がかつて学んできたことを活かしていくのであれば、いわば世代間の連帯であり、ここに示した取り組みとは違って来る。この取り組みを進める手段として、ラジオ体操をどう活かせるのかを具体的に示さなければならないと思う。</p> <p>そうしたことから、ここで意見を一つにすることは難しいと思うので、いったん意見を引き取らせていただき、会長・副会長・事務局で一度整理したうえで、次回お示しさせていただくことでよろしいか。</p>
委員	<p>子どもたちの連携強化ということであれば、⑤スポーツ参加機会の提供の中にミニサッカーや縄跳びなど気軽にみんなのできるスポーツが示されているので、こうしたものを広めていったほうが、効果が期待できるのではないか。</p>
委員	<p>子育て・教育というテーマについては、スポーツ以外にも文化のようなものが入ってきても良いのではないか。</p>
会長	<p>確かにスポーツにこだわりすぎた部分もあるので、そうした文化的な側面も含め、方策3についてはいったん意見を引き取らせていただきたい。</p> <p>それでは、方策4「地域の連携による地域交流活動の充実」に進めさせていただく。</p> <p>何か意見はないか。</p>
委員	<p>⑨地域ぐるみのあいさつ運動とあるが、あいさつ運動は実際に上河内で</p>

	実施されていると思う。
会 長	そうするとあいさつ運動自体は、すでに上河内に定着しているものと理解してよろしいのか。
委 員	方策としては地域の連携による地域交流活動の充実という大きな内容であるが、実際はあいさつ運動だけである。中身をもう少し膨らませたほうが良いのではないか。
委 員	先ほど会長から問題提起されたラジオ体操をどう活かしていけるのかということに関連してくると思う。取り組みとしては、ラジオ体操を地域全体のイベントに設定するという内容で示されているが、そうであるならば、方策3の⑥子どもたちの連帯強化という取り組みよりも、地域全体の世代間交流ということで方策4「地域の連携による地域交流活動の充実」のところに移動したほうが良いのではないか。
会 長	方策4に移動するのであれば、子どもたちという表現ではなく地域ぐるみのラジオ体操の実施というような表現になってくると思う。そうすることで先ほどの問題も解決すると思うがいかがか。
全委員	異議なし。
委 員	⑨地域ぐるみのあいさつ運動とは、「おはようございます」だけなのか。あいさつといっても受け答えができない子どもがいるため、オアシスといって「おはようございます」、「ありがとうございます」、「失礼します」、「すみません」という部分を含めた具体的なあいさつ運動を行うことが大切であると思う。
会 長	今まで行ってきたあいさつ運動の質を高めていくという趣旨であり、単なる知識や技能を教え込む前に、マナーや姿勢など、社会に出ていくための基本を教えることが大切であるということである。そうした社会人としての基礎となるものをオアシス運動によって幼い頃から身に着けていく必要があるという意見である。そうすると方策4「地域の連携による地域交流活動の充実」に絡めていくということで、方策4については、地域ぐるみのオアシス運動の実施という内容と、先ほどの地域ぐるみのラジオ体操の実施という取り組みの2つとすることでよろしいか。
全委員	異議なし。
会 長	それでは、次に進めさせていただく。 方策5「地域における子育て支援の充実」について、何か意見はないか。
委 員	⑩子どもの家の整備のところで、3年後までに学校施設内に子どもの家を整備するとあるが、行政予算との絡みはようになってくるのか。
会 長	こちらについては、合併市町村基本計画に関わる事項であり、計画期間

	内に整備していただきたいという趣旨である。 その他、意見はないか。
全委員	意見なし。
会 長	それでは、テーマ「環境・景観・防災・上下水」の部分について、事務局から説明願う。
事務局	「環境・景観・防災・上下水」の部分について、説明させていただく。 (資料1の「環境・景観・防災・上下水」の実行プランについて説明)
会 長	まず、方策1「豊かな水を活かしたまちづくりの推進」について、何か意見はないか。
委 員	①水質の保全で、水質というのは県の基準というものがあり、上河内にも西鬼怒川があるが、市の予算で水質調査をやっていただけないかと思っている。西鬼怒川では蛍祭りがあると思うが、そうした意味では西鬼怒川水質を保持することは大変重要なことである。
会 長	そうすると、①水質の保全の3年後までの枠に、水質管理という内容を追加するということではいかがか。
全委員	異議なし。
委 員	①水質の保全に示されている内容で、スケジュールの10年後に公共下水道の完全整備とあるが、子育て・教育のところにあった子どもの家の整備の考え方とは違い、合併市町村基本計画に含まれている事業であるが、10年後でも構わないということで受け取られてしまうのではないか。8月に市長に答申した内容では、合併後10年後以内に完全に整備していただきたいと答申したはずである。
委 員	参考までに、上河内の東ノ内は公共下水道計画区域に入っているが、いつ整備するのかは定かではない。また、そうした地域では、合併処理浄化槽を入れる際に出る補助金は対象外となる。市としては20年以上計画がない場合は補助金が出るということである。
会 長	自治会議として合併市町村基本計画で約束されているものを、あえて先延ばしにするのはおかしいということであり、5年後に移動するという意見である。
事務局	現実問題として、公共下水道の完全整備となると5年後までには厳しいと思う。公共下水道の整備という表現で5年後までの枠に記載するということではいかがか。
会 長	約束された事項を自治会議が自ら変更するのはおかしいので、合併市町村基本計画で約束された事項として合併後10年後までに完全に整備するという内容であれば、そのように示す必要がある。もし完全整備が合併時

	の約束でないのであれば、10年後までに完全整備という内容には無理があると思うが、どうなっているのか。
事務局	合併市町村基本計画の主要事業については、地域のまちづくりを推進していくうえで必要な事業として宇都宮市が定めたものであり、計画期間の10年後までにすべて整備が完了するといった趣旨のものではない。
会長	そうであれば、計画に沿った内容で5年後までに公共下水道の整備推進という表現で記載いただければ良いと思う。
委員	③豊かな水の活用にある小水力発電について詳しい内容を知りたい。
会長	小さな河川の落差を利用するというものであり、簡単に言うと水車のようなものをイメージしていただければ良いと思う。
委員	②蛍マップの作成については、里山を守る会と連携して進めていければ良いと思う。
副会長	里山を守る会では、すでに蛍マップを作成しているということを知ったことがある。
会長	もし蛍マップを作成してあるということであれば、内容が変わってくると思うが、どうなっているのか。
委員	地域に出せるようなマップとして作成したものではないと思う。
委員	そうしたものを参考にして、地域に広めていけば良いのではないかと。
会長	そういうことであれば、③蛍マップの作成については、このままの表現とさせていただくがよろしいか。
全委員	異議なし。
会長	それでは、次に進めさせていただく。 方策2「地域ぐるみの環境保全活動の推進」について、何か意見はないか。
委員	④ごみ0運動の促進の中に小学生に啓発ポスターを依頼するとあるが、その前に地域全体で行う清掃活動の中に子どもたちが入っているのであれば良いと思う。草刈や河川の清掃を行っている自治会があると思うが、そうした所に子どもたちが参加している自治会はないと思う。新たにごみ0運動を始めるといっても、そうした既存の取り組みを土日に開催して子どもたちを参加させることで、近所の子どもたちの様子も分かるくらいのほうが良いのではないかと。
会長	④の取り組みの3年後までの枠にある地域全体で定期的な清掃活動を実施する中に、子どもたちも参加させるという意見であると思うがいかがか。
副会長	まちづくり協議会の意見として、地域全体で自分の家の周りから清掃を始めて、徐々に輪を広げていくという意見があった。そうすれば子どもた

	ちも自宅周辺であれば参加しやすいのではないかと。
委員	子どもたちも一緒に清掃活動を行うことで、ごみを捨ててはいけないという意識付けにもなる。また、清掃日の制定ということについては、宇都宮市の全市一斉清掃日に自宅周辺の清掃を行い、どんどん範囲を拡大させていけば良いと思う。
会長	それでは、子供たちも参加した自宅周辺の清掃から地域全体に拡大していくといった内容に修正させていただく。 他に意見がないようであれば、次に進めさせていただく。 方策3「耕作・山林放棄地の有効活用の推進」について、何か意見はないか。
委員	⑦里山の整備にあるログハウス用材木とはどこで誰が使うものなのか。 また、里山の間伐事業を地域のボランティアができるのかは疑問である。現実的にはログハウス用材木という考え方よりも、イノシシやクマによる被害が多いため、荒れている山の間伐するとともに、イノシシの餌となるような実のなる木を植林し、下まで下りてこないようにするほうが良いと思う。
副会長	間伐材自体はあまり活用されていないと思うので、ログハウス用材木として有効活用すれば良いのではないかとという趣旨で出された意見であると記憶している。
委員	ここには里山の整備とあるが、里山の定義は、30年、50年、100年たった山も里山ということもあるが、田んぼや畑と山の境目にある果樹や低木が埋まっているところが一般的な里山と呼ぶところであると思う。そうであればログハウス用材木は里山からは出てこないということである。
会長	里山の定義は、童謡で出てくるイメージで奥深いところのイメージではないということであれば、取り組み自体をどう考えるべきか。
委員	間伐材を何かに利用するのではなく、間伐するにも費用が掛かるためログハウス用材木として利用してはいかかということ議論してきたと思うので、里山ではなく山林の整備とすればこの内容でも大丈夫ではないか。
会長	ログハウス用材木としてという意見もあるので、荒れた山林の整備と合わせ、より適切な表現で修正させていただくということよろしいか。
全委員	異議なし。
会長	他に意見がないようであれば、次に進めさせていただく。 方策4「自然を活かした景観活用交流の充実」について、何か意見はないか。

委員	⑨山田川サイクリングロードの整備にある山田川サイクリングロードとは、どこから繋がっているのか。
委員	河内地区から来ているものを整備するというものである。
会長	他に意見がないようであれば、次に進めさせていただく。 方策5「災害に強い地域づくりの推進」について、何か意見はないか。
委員	⑬井戸水マップの作成のところに井戸水調査とあるが、どのような調査を行うのか。また、災害はいつ起こるか分からないので、5年後までに井戸水マップを作成するのでは遅すぎるのではないか。
会長	まず、井戸がある地点の調査なのか地下水脈の調査なのかということであると思うがいかがか。
委員	井戸水を掘ってある家庭の調査を行った後に、その井戸水の水質も調べるといった調査である。
会長	井戸水マップやつるべ井戸の設置をいつまでに行うかについては、それぞれ3年後まで・5年後までの枠に前倒しにするということによろしいか。
全委員	異議なし。
委員	方策2も一部合併市町村基本計画に関係してくると思う。
事務局	合併市町村基本計画の主要事業である地域交流館整備事業に関係してくる内容と思われるので、⑤の取り組みのところに合併市町村基本計画付議事項と表記させていただく。
会長	他に意見がないようであれば、次のテーマに進めさせていただく。 テーマ「健康・福祉」の部分について、事務局から説明願う。
事務局	「健康・福祉」の部分について、説明させていただく。 (資料1の「健康・福祉」の実行プランについて説明)
会長	それでは、方策1「高齢者を活用したボランティア活動の充実」について、何か意見はないか。
全委員	意見なし。
会長	方策2「温泉施設等を利用した健康づくりの推進」について、何か意見はないか。
全委員	意見なし。
会長	方策3「高齢者の外出支援の充実」について、何か意見はないか。
副会長	⑦の取り組みにあるデマンドタクシーについては、具体的な案ができつつあり、地元説明会などを行い、皆様の理解が得られれば、来年の10月を目標に運行を開始したいという計画であり、運行までに5年は掛からないと思う。
会長	そうであれば、すべて前倒しさせていただくがよろしいか。

副会長	5年後までの枠に利用者の拡大ということを表記していただければ良いと思う。
会 長	他に意見がなければ、方策4「地元の新鮮な食材を活かした食育の推進」について、何か意見はないか。
全委員	意見なし。
会 長	方策5「世代間交流を通じた生きがいがづくりの推進」について、何か意見はないか。
委 員	<p>⑫世代間交流の充実とあるが、まちづくり協議会として来月の1日に三世代交流事業を開催する予定である。具体的にはまちづくり協議会の中にある安全・安心部会の青少年育成会や老人会などが中心となって三世代交流会を開催するものであり、上河内体育館を使ってベーゴマや吹き矢など、昔ながらの遊びを通じて、子どもたちと一緒に遊ぼうという催しである。</p> <p>また、小学校・中学校合わせ4つのブースを設け、いろんな展示をして学校の紹介をするといった内容や各学校の全校表彰という形で今まで学校全体でやっていたものを一堂に会して行うものである。今回、初めてまちづくり協議会として上河内全体の催し物が開催できるということで、今回の反省を踏まえてできる限り長く続けていければと考えている。</p>
会 長	三世代交流事業はすぐに進められる状態であるということであれば、⑬三世代交流施設の設置については、サロンを設置したうえで交流事業を更に進めていくという内容に変更すれば良いのか。
副会長	まちづくり協議会では各公民館をサロンに利用したほうが良いのではないかという意見もあった。
委 員	高齢者を対象とした生きがいがづくりサロンということで、宇都宮市の社会福祉協議会が推進しており、上河内の梵天の湯にも設置しようということで検討している。そうしたものを各自治会に波及させようということも社会福祉協議会の事業としてあるので、取り組みを前倒ししても良いと思う。
事務局	10年後までの枠に表記してあるサロンの設置については、以前の自治会議の協議では、新たな場所にサロンを設置するという意見であったと記憶している。
委 員	高齢者を対象とした生きがいがづくりサロンについては、既存の建物を利用したものということで3年後までに行うものとし、三世代交流の場として活用というものについては、新たな施設とすれば10年後ということになるのではないか。
事務局	それでは、既存施設を利用したサロンの設置として、3年後までの枠に

	表記するということよろしいのか。
委員	それは違うと思う。方策2の⑤の取り組みにも関わってくる内容である。そうであれば、5年後までに既存施設だけでなく温泉施設の再整備も合わせて考えていかないと整合性は取れない。既存施設等を中心という表現で5年後までに表記したほうが良い。
事務局	⑤にある温泉施設の再整備については、あくまで危険防止や健康促進を目的に整備するという委員からの意見であったため、サロンをつくるという趣旨ではなかったと思う。
委員	スケジュールの中で利用者ニーズ調査を行うとなっている。それが高齢者を配慮した整備に繋がると思っているので、手すりなどの他にもそうした内容も含めた調査ではないのか。
会長	いずれにせよ、あまり特定しないほうが良いということであるが、その点については一度引き取らせていただき、検討させていただく。 他に意見はないか。
全委員	意見なし。
会長	それでは、議事はここまでとさせていただく。 また、次回の自治会議では、今回協議した実行プランを含め、提案書の案としてまとめたものを提示させていただく。 なお、今回協議した実行プランの文言修正や微調整については、会長・副会長一任とさせていただきたい。
4 その他	
会長	次に次第4の「その他」について、意見を求める。
事務局	次回の平成24年度第6回宇都宮市上河内自治会議は、1月を予定している。
会長	他になければ本日の議題は終了させていただく。
全委員	意見・質問なし。
5 閉会	
会長	以上で、平成24年度第5回宇都宮市上河内自治会議を終了する。